

運営評価のシステム（平成29年度）

使命	目標	指標	参考資料
I 美術を通じた交流を促進する			【集客・交流推進】
①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。			〔広報〕
達成目標	年間観覧者数100,000人以上	<ul style="list-style-type: none"> 年間観覧者数(年度別推移) 年間来館者数(年度別推移) 駐車場利用状況(年度別推移) 来館回数(年度別推移) *リピート率 居住地域(年度別推移) *市民率 交通手段(年度別推移) 	
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種メディアへの掲載実績 訴求活動の概要(ポスター等配布、リリース発送の状況) 	
②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。			〔市民協働〕
達成目標	市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,000人(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)	<ul style="list-style-type: none"> 各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧 →サポボラ研修 所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数) 小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ) ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ) プロジェクトボランティア会議 プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数) 	
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> 市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア関連事業の概要 ・(ボランティアの感想・反応) 	
II 美術に対する理解と親しみを深める			【社会教育】
③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。			〔展覧会・教育普及〕
達成目標	企画展の満足度80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 各企画展の満足度 所蔵品展の満足度(年度別推移) 谷内六郎展の満足度(年度別推移) 	
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 美術への興味や理解が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を収集し、図書室で整理・保管し利用者に公開する。 資料の分類や配架を工夫し、快適に利用できる図書室環境の維持に努める。 主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点) 所蔵品展の概要(同) 谷内六郎展の概要(同) 講演会・アーティストトーク等の実施状況(同) 大人向けワークショップ等の実施状況(同) 図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数) 図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点) 学芸員による論文、発表等 	

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。		[若年層への教育普及]
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(延べ人数の年度別推移)
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 ・小学生美術鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。 ・美術館を活用した鑑賞教育がいつそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。	・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。		[収集管理]
達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する		[運営・管理]
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。		[メンテナンス・来館者サービス]
達成目標	・館内アメニティ満足度90%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	・メンテナンスの概要 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・ケータリング実績
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。		[バリアフリー]
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ420人以上	・福祉関連事業の開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう(環境づくりの)ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・託児サービスを積極的に周知していく。	・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。		[経営的視点]
達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。	・エネルギー消費量一覧
実施目標	・職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	・歳入及び歳出の内訳